

【ポスター発表】

タイムスケジュールからみた多職種連携の問題点

- 精神病院 PSW の事例からの検討 -

南海福祉専門学校 久保 元二 (002947)

〔キーワード〕多職種連携、タイムスケジュール、PSW

1. 研究目的

多職種連携（以下、連携と略する）におけるモデル化の試みや規範的なあり方に関する研究は進んでいるが、それ以前に、実践上取り残されたいくつかの基礎的な問題が連携に影響を及ぼしていると考えられる。その一つがタイムスケジュールである。

連携とは、チームや課題集団による問題解決過程とそのパフォーマンスの結果であると考えられるが、現状では、問題解決ではなく集団自体の形成や維持すなわち調整に各種コストが発生している。連携はもちろん重要であるとして、ソーシャルワーカーが抱える業務実態を踏まえ、より現実的な連携の手法や工夫が求められる。そこで、本研究では精神科ソーシャルワーカー（以下、PSW と略する）のタイムスケジュールの事例から連携における問題点を抽出し、具体的手法を検討することを目的とする。

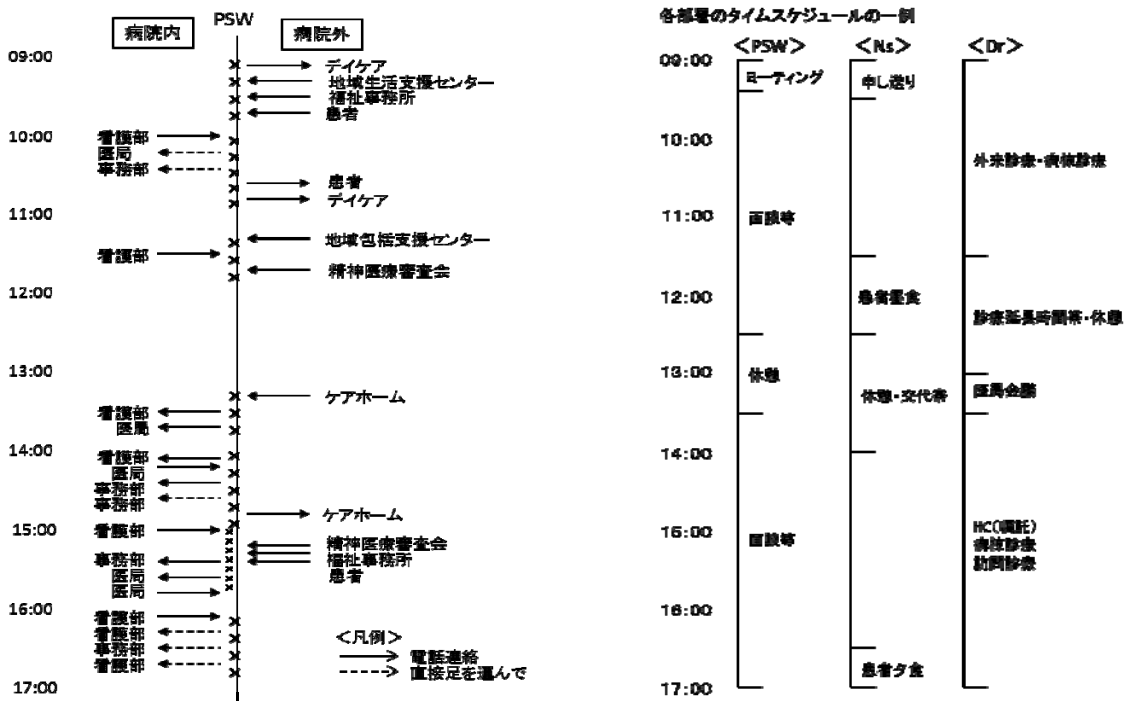
2. 研究の視点および方法

方法は事例研究である。西日本地域にある A 精神病院の PSW から、当該病院の関係セクションの一日の業務スケジュールを記載してもらい、その時間軸上に、いつ、誰に対して連絡や口頭伝達を行ったか、逆に、いつ、誰から連絡や口頭伝達を受けたかをプロットしてもらい、その内容を検討した。また、記載資料に対して情報を補完する目的でヒアリングを実施した。事例提供及びヒアリングの作業は平成 23 年 5 月初旬から中旬にかけて実施した。

3. 倫理的配慮

事例提供資料及びヒアリングについて、本学会研究倫理指針第 2-B に基づき、研究目的での事例使用承諾を得た上で、匿名化等の倫理的配慮を行った。なお、本研究では患者サイドの個人情報は一切聞き取りをしていない。

4. 研究結果



当該事例による検討から、以下の4つの問題点が確認された。

- (1) 連携の必要性認識は共通しているが、互いのタイムスケジュールを理解しないまま無秩序な連絡をしたりされたりという問題が確認された。
- (2) イレギュラリティに伴う精神的負荷や、業務の中断、業務に集中できない等の問題が確認された。
- (3) 連絡体制が十分でも、最終的には全専門職が必ず患者と対面するため、言語的情報のみの交換だけでは業務は完遂しえないことが確認された(審査会等の行政手続きを除く)。
- (4) 頻繁な連絡調整に対して1人のPSWでは対処できず、担当患者にかかわらず複数PSW間で助け合わなければならない実態が確認された。

さらに、これらの問題点から、以下のような具体的手法と工夫が求められる。

- (1) 各部署・各機関のタイムスケジュールを合致させることは事実上不可能であり、各専門職がそれぞれオフィスアワーを設定し、確実な連絡体制を構築すべきである。
- (2) 患者に関する諸情報のうち、文字情報で伝達可能な部分と不可能な部分を取捨選択し、FAXやメール、部内LAN等の文字情報媒体を適宜積極的に活用すべきである。
- (3) イレギュラリティの発生は当然のこととして、その判断基準や合理性について関係者間で議論すべきである。
- (4) 上記(1)～(3)の有効性を担保するため、互いの事情を配慮し合える専門職間の個別な関係性を構築すべきである。